

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
神経変性疾患領域の基盤的調査研究 分担研究報告書

## 「パーキンソン病の療養の手引き（H28年度発行）追補版」の作成

研究分担者： 高橋良輔  
京都大学大学院医学研究科臨床神経学

共同研究者： 柿田明美<sup>1</sup>，高橋祐二<sup>2</sup>，武田 篤<sup>3</sup>，坪井 義夫<sup>4</sup>，長谷川一子<sup>5</sup>，服部信孝<sup>6</sup>，  
望月秀樹<sup>7</sup>，澤本 伸克<sup>8</sup>

<sup>1</sup>新潟大学脳研究所，<sup>2</sup>国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科，  
<sup>3</sup>NHO 仙台西多賀病院脳神経内科，<sup>4</sup>福岡大学脳神経内科，<sup>5</sup>NHO 相模原病院神経内科，  
<sup>6</sup>順天堂大学脳神経内科，<sup>7</sup>大阪大学神経内科・脳卒中科，  
<sup>8</sup>京都大学医学研究科人間健康科学系専攻

### 研究要旨

「パーキンソン病の療養の手引き(改訂版)」は平成 28 年度「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」(中島班)の事業として、神経変性班内外の有識者、特に若手を中心とした先生方のご協力によって発行された。この手引きは、Q&A 形式のわかりやすい病気の解説書として、現在まで広く活用されてきた。しかし、発行後の約 5 年の間に新しい治療法が利用可能になる一方で、新型コロナウイルス感染症によって日常生活や病院診療は一変した。こうした診療の進歩と社会の変化に対応するため、本研究班の事業として追補版を作成した。中堅・若手の専門家を中心にご協力、ご執筆をいただき、Q&A 形式の構成でイラスト・図を多用し、患者・介護者の立場に立った工夫された原稿をいただいた。追補版も「神経変性疾患領域の基盤的調査研究班」のホームページへの掲載や患者会への周知をお願いし、ご批判をいただき、さらなる改訂に役立てることを検討したい。患者さん、ご家族はもちろん、多くの医師、看護師、理学療法士や作業療法士をはじめとした医療や福祉の関係者に役立てられる手引きを目指す。

### A. 研究目的

「パーキンソン病の療養の手引き(改訂版)」は平成 28 年度「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」(中島班)の事業として、神経変性班内外の有識者、特に若手を中心とした先生方のご協力によって発行された。親しみやすい Q&A 形式で構成され、多くのイラストと大きな字による平易・簡潔な記載で、

一般の方にも読みやすい工夫がされている。この手引きは、「神経変性疾患領域の基盤的調査研究班」(中島班)のホームページ(<http://plaza.umin.ac.jp/neuro2/>)からダウンロードすることが可能となっている。

病気に関するわかりやすい手引き書(本文 106 ページ)として、現在まで広く活用されてきたが、発行後、新しい治療法が利用可能

になる一方で、新型コロナウイルス感染症によって日常生活や病院診療は一変した。こうした背景から、本研究班の事業として追補版を作成することを計画した。

## B. 研究方法

形式は平成 28 年度版を踏襲して、Q&A 形式で構成し、イラスト・図を多用して、患者・介護者の立場に立ったわかりやすい記載を目指した。前回の手引き作成以降の診療の進歩と社会の変化に対応するため、追補版には新しい治療選択肢とコロナ禍における療養・リハビリテーションについての記載を含めることとした。

本分担研究では、配慮すべき倫理的問題はないと考えた。

## C. 研究結果

中堅・若手の専門家を中心にご協力、ご執筆をお願いした。多くの患者さんやご家族に活用いただけるよう平易・簡潔に記載された原稿を、以下の内容でいただき、掲載した(敬称略)。

### 【目次】

- パーキンソン病の治療と対応
  - ・L-ドパ/カルビドパ持続経腸療法  
[仙台西多賀病院 馬場 徹]
  - ・ホスレボドパ/ホスカルビドパ配合持続皮下注療法  
[大阪大学 池中 建介]
  - ・MR ガイド下集束超音波治療  
[北野病院 戸田 弘紀]
  
- 日常生活における注意
  - ・コロナ禍における療養・リハビリテーション  
[埼玉県総合リハビリテーションセンター 市川 忠]

## D. 考察

用語については、原則的に「神経学用語集改訂第 3 版」に従った。「神経学用語集」に記載がない用語は、「パーキンソン病ガイドライン 2018」に従った。

## E. 結論

「パーキンソン病の療養の手引き(改訂版)」が平成 28 年度に発行され、現在まで広く活用されてきた。しかし、発行後約 5 年が経過したことから、中堅・若手の専門家を中心にご協力、ご執筆をいただき、本研究班の事業として追補版を作成した。今後は多くの方々へ提供してご意見をいただき、表現や用語をより親しみやすく、よりわかりやすいものとするべく改訂を重ねることも検討する。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表 (2020/4/1～2023/3/31 発表)

### 1. 論文発表

高橋良輔・研究分担者『パーキンソン病の療養の手引き (2016 追補版)』(2023 年 2 月) [「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」(中島班) ホームページ (<http://plaza.umin.ac.jp/neuro2/>) からダウンロード可能]

### 2. 学会発表

該当なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

該当なし

**2. 実用新案登録**

該当なし

**3. その他**

該当なし